

## 青年海外協力隊「現職教員参加制度」派遣教員レポート(平成 28 年4月分)

氏 名:向井 緑(呉三津田高等学校)

現地勤務先:ケミン第 2 中等学校

# Рахмат & Спасибо

～ありがとう～ 国語キルギス語「ラフマツ」と公用語ロシア語「スパシーバ」



皆さん、こんにちは。 Саламатсыздарбы! (キルギス語)  
Здравствуйте! (ロシア語)

2 月には $-17^{\circ}\text{C}$ を記録しましたが、今年はとても暖かい冬でした。春になり、町内ではアプリコットやリンゴの花が美しく咲いています。こちらは 5 月が学年末です。6 月に試験があり、その後 2 ヶ月間の夏休み。今回は 2 月～4 月の出来事及び活動の様子を紹介します。

### ◆日本との深いつながり

「自分たちと日本人はかつて兄弟だった」と語るキルギス人は少なくありません。日本人と顔立ちが似ており親日的な人が多い印象を受けます。5000 キロも離れた日本で発生した地震のニュースに心を痛め、多くの人々からお見舞いの言葉を掛けてもらいました。

### <相撲大会>

日本大使館文化事業として、2 月末の「日本総合紹介週間」にビシュケクで相撲大会が実施されました。四股や立ち合いについて専門家から指導を受けた後、男女重量別に白熱した取組が繰り広げられました。レスリングや柔道の技が飛び出すこともあり、応援にも力が入りました。



### <日本文化紹介イベント>

青年海外協力隊員が活動している地域や学校で様々なイベントが開かれました。コマや折り紙、書道や浴衣の試着等みんな興味津々で、寿司やたこ焼きの実演コーナーは黒山の人だかりでした。



### <ケミン地区音楽コンクール>

本校からは日本舞踊チームが出場しました。9人の女子生徒が浴衣と舞扇で圧巻の演技を披露し、満員の会場から喝采を博しました。舞踊指導や着付にはキルギス人の先生方が積極的に協力してくれ、学校全体として日本文化に対する理解が深まりました。同僚のジャズグル先生は、自分で帯を結んで浴衣を着こなせるほどです。また、低学年の子どもたちには威勢の良い「ソーラン節」が人気です。自分たちで動作をアレンジし学校行事等で披露しています。



### ◆“WE LOVE ENGLISH!”—英語で世界を広げよう—

ここキルギスでも英語は重要な国際共通語だと認識されています。最初は尻込みしていた生徒たちも「外国人」である私とコミュニケーションを図るため積極的に英語で話しかけてくれるようになりました。英語の授業は小学3年生以上のクラスで週2回実施されていますが、英語に親しむ機会をさらに増やすため様々な企画をしています。

### <呉三津田高等学校との交流>

呉三津田高等学校英会話部の皆さんと英語の手紙を交換しました。航空便で1ヶ月以上かかりましたが無事日本から手紙が届き、職員室前の「キルギス—日本 友好コーナー」に展示しています。子ども達は「キルギス人と顔がそっくり」「校舎が高い」「富士山の絵だ」などとワイワイ。



高学年の生徒たちは書かれた英語を声に出して読み ALT Kathryn 先生の手紙や写真を見て“Very beautiful!”と興奮気味の様子でした。



### <Guest Teacher 特別授業>

月に一度、キルギス在住の外国人を授業に招待しています。講師の国籍も話の内容も様々ですが「英語」という共通手段で繋がっています。これまでに、自然や動植物の話、写真や芸術の話を行いました。分からないことはどんどん英語で質問し自信を深めています。英語が分かれば世界が広がる、次はどんな話が聞けるだろうかと、生徒たちは毎回とても楽しみにしているようです。

